



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB. 1993



2018～2019 年度主題

国際会長	Moon Sang Bong(韓国)	「私たちは変えられる」
アジア地域会長	田中博之 (東日本区)	「アクション」
東日本区理事	宮内友弥 (東京武蔵野多摩)	「為せば成る」
北東部部長	涌澤 博 (仙台青葉城)	「チャンス到来 我ら北東部から世界へ」
会津クラブ会長	青山孝男	「力の限り この地の塩として！」

<No.281 会津通信>
2018年9月12日発行

会長	青山孝男
副会長	高橋真美
書記	高橋真人
会計	高橋真人

◇9月の聖句◇

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたの立派な行いを見て、あなたの天の父をあがめるようになるためである。

マタイ福音書5章 16 節

9月例会

日時:2018年9月12日(火)18:30～

場所:Café & Bar プロント会津若松店

司会:高橋 力さん

- | | |
|---------------------------------------|----|
| 1.開会点鐘 | 会長 |
| 2.ワイズソング | 一同 |
| 3.会長あいさつ | 会長 |
| 4.連絡・報告 | |
| 5.聖句朗読 | |
| 6.食前感謝 | |
| 7.歓談 | |
| 8. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |
| 9.閉会点鐘 | 会長 |

「剣を打ち直して鋤とし、」

高橋 力

「槍を打ち直して鎌とする」。これは旧約聖書イザヤ書2章の平和を目指す変革の言葉です。NY国連ビルの前で見た砲身のよじれた銃の彫刻を思い出します。ベトナム戦争の末期でした。世界の思いが吹き出していました。

重なる災害の復旧に勤しむ警察、消防、ボランティアなどの救援活動のテレビ放映に心打たれます。特に自衛隊の活動に励まされます。ここで冒頭の言葉を思い出しました。併せて憲法の特に9条をいじって自衛隊の存在の当然化を狙う企みが蠢きます。世界の平和への機運の軸を錆つかせる自民党などは悲惨な戦争の実態を知らない政治家(権力者)の濁流です。これも旧約聖書に預言者アモスは「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」と宣告します。予言とは違います。神の意志を預かって身の危機を覚悟で宣告するのが預言者です。

話を戻し提案します。自衛隊の内実の改革です。陸海空自衛隊の戦力は世界最高と報じられています。この道で世界に存在するための国防費は無尽蔵に膨れ上がります。唯一の勝利への道はこの道だけだと突き進むのが戦争を知らない安倍政治でしょう。戦闘地域であることを隠す黒塗りの「イラク日報」問題が知らせたことは如何に政治感覚と戦闘の現場の乖離の実態です。非戦闘地域だからという名目で派兵された現場から連日届く命がけの日報を国民の目から隠す非倫理性がこの政治を動かしています。

<8月例会出席状況>

在籍者 5名 ゲスト0名

出席者 4名

*例会出席率 80%

あかべこ	4,000円
18-19年度合計	8,000円

《例会》

毎月第2火曜日 19:00～21:00

若松栄町教会 (☎0242-27-3944)

☆ 強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う ☆

戦闘の現場から帰国してきた隊員の PTSD (Post Traumatic Stress Disorder) に心が痛みます。戦場の悲惨さ、恐怖に連日襲う強烈な心的外傷体験をきっかけに、実際の体験から時間が経過した後になっても、フラッシュバックや悪夢による侵入的再体験などの刺激の回避、否定的な思考や気分、怒りっぽさや不眠などの症状が持続する心の破壊状態を指します。帰国した後の自殺者が出ています。アメリカもベトナム戦争、イラク戦争後の深刻な痛みがありました。所謂太平洋戦争敗戦後の日本でも PTSD の元兵士を身近に味わいました。戦争の生み出す大問題です。勝っても負けてもです。これに目をつぶって憲法をいじって戦争への道を開こうとする政治を認めることはできません。

提案します。冒頭の預言の叫びのように、自衛隊を「災害救援組織」とすることです。被災地はこの力に支えられています。ボランティアは励まされます。生き方の変革です。ここから始まるこの国の将来のイメージを描きましょう。(次号は、高橋京子さん)

9月号報告(東日本区報より抜粋)

理事メッセージ



宮内友弥 (東京武蔵野多摩)

8月例年より1週間遅れの8月9日～8月12日に開催された第73回国際大会に行ってきました。会場は韓国南部の麗水 (Yeosu)、現国際会長の地元で参加者約3,000名の内2,600名が韓国からの参加。

(大会主催者側から正式発表が無い場合推測では、東西日本区で90名の参加者)。

初日のオープニングセレモニーでは、ムン大統領のメッセージを筆頭に国会議長、知事、麗水市長ほかのお歴々の挨拶、2日目は分科会ほか、3日目は地域毎のコンファレンスほか、4日目はクロージングでバラントイン賞を受賞の藤井元国際会長の受賞挨拶がありました。

今回の大会は、国際大会ではありながら韓国の地域大会的色彩を強く感じられるものでした。しかし一方で韓国ワイズダムのバイタリティーを感じさせられる大会でした。韓国の勢いに負けぬよう我が東日本区も頑張りましょう。

ご存知のように国際ではワイズ100周年を2022年に迎えます。区としても2022年に向けて東日本区スタート時の1,248名への復活を目標にして、部エクステンション委員会にご尽力をいただけるようにサポート体制を整えるべく準備しております。各メンバーの皆様にご配慮をお願いいたします。

会津だより

少年の主張「会津若松市大会」最優秀賞

「未来は変えられる」河東学園小6年 星美月さん
誰もがきっと、一度はこう思うでしょう。「あの日にもどりたい」と。私は何回もあります。だって、くやしかったんです。本当に。あの時、言い返さずに、ただただ、静かにうつむいて、手をにぎりしめることしかできなかった自分が。それは、小学4年生の夏の暑い日のことでした。集団登校の時、事件は起きました。班長がいつも使っていた班旗が折れてしまったのです。真っ先に疑われたのが私でした。「お前がやったんだろう。うそつくな」と、強いことばで責められました。でも、私はやっていません。「私は絶対にやっていない。どうして私だけ疑うの。私だけ」と心の中でさげびました。でも、その心の叫び声は、私以外誰にも聞こえませんでした。(以下次号へ)

会津の先人たち(会津若松市 HP より)

世界的陶芸家を育てた女性

板谷 まる(1870～1958)

板谷波山 (いたや はざん) をつくった女性

陶芸家として、浜田庄司らと並び称される人に、板谷波山がいます。この波山の才能を信じて世界的な陶芸家になるまで育てあげたのが、妻である板谷まるです。

まるの生い立ち

まるは、明治3年に河沼郡坂下村(今の会津坂下町)随一の呉服商、鈴木家の三女として生まれました。成長したまるは、東京の創立後間もない共立女子職業学校(今の共立女子学園)に入学し、裁縫などの実学とともに日本画を習いました。また会津出身で社会児童福祉の先駆者である瓜生岩子にも私淑し、大きな影響を受けています。明治26年、若松に戻ったまるは、結婚して経営を譲る明治28年まで、自分で創立した会津女子職業学校の主任教師として裁縫や手芸を教えました。

波山との出会い

茨城県下館町(今の下館市)に生まれ育った波山は、初めは職業軍人を目指していましたが途中で芸術に目覚め、東京美術学校彫刻科に入学しました。卒業後は私立中学校の美術教師をしており、そのころに瓜生岩子の孫にまるを紹介されました。日本画をかいていたまるは、波山の才能を見抜き、自分の職業婦人としての生き方を捨てて波山と結婚しました。(以下次号)

☆ 今後の予定 ☆

- ◇ 北東部会 9月22日 仙台
- ◇ 10月例会 10月9日
- ◇ ・ユニークダンスボランティア
10月11日 午後2時～
場所：ハーモニハウス
- ・10月例会 10月24日
場所：アガッセ